津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111㈹
印刷所　旭印刷
電話(水俣)㉝4101番

津奈木中学校三年生が田植えの体験学習を行いました。
勤労生産の大切さを肌で体験した得がたい学習になったことでしょう。

田植えの体験学習

津奈木中学校

六月二十三日、三年生全員で、田植えを行いました。

田植えを終えて思ったことは、まず、とてもきついということです。苗の一本一本を植えるのにも大変苦労しました。ヒルがいて、とても気持ちが悪かったです。でも、一生懸命頑張ったので、いい結果が得られたと思います。僕は田植えをすることなどめったにないから、いい勉強になったと思います。

そして、農家の人達の苦労がよくわかりました。僕達は、そんな人達がいるからこそおいしい米が食べられるのだと思います。色々お世話になった斉藤さんにはとても感謝しています。今日植えた苗がすくすくと生長してやがて実をつける頃まで色々あると思うけれど、みんながやりたいと思って始めたことだから最後まで頑張り、秋にはたくさんの実をつけた稲に育てたいと思います。（福田　光記）

一言

豊かさ故に　貧しさが

現世ほど物の豊かさを実感している時はないようです。欲しい物は金さえ出せば何でも手に入る時代ではないでしょうか。日本経済の面から見ると、大変結構な事で経済の豊かさの一面ではないでしょうか。国際的にみると、物質的な豊かさはかなりの格差があるようです。

ロシアの食料不足、インドネシア、アフリカ諸国の食料、医薬品不足等は我が国などでは到底考えもつかない貧しさでしょう。我が国では、病院へ行けば、素晴らしい薬が医師の指示によって充分服用できます。また、食料品などはスーパーに行けば何時でも、何処でも、誰でも、好きな物を自由に買えるのは豊かさ故にできることでしょう。

一方、物の豊かさ故に心の貧しさが盛んに叫ばれるようです。思いやりがない、人の痛み、辛さがわからない、自制心に欠ける等、様々な心の貧しさから社会問題が発生してくるのです。これだけの豊かさ（物質面での）であるから、心の豊かさも身につけて素晴しい思いやりのある社会や町にしたいものです。「物の豊かさに勝る、心の豊かさ」にしたいものです。

平成四年度　社会教育団体役員紹介

津奈木町連合青年団

団長　本山　真吾
副団長　川野　裕司
副団長　竹本　昌広
副団長　永松　伸也
事務局長　荒川　隆広
顧問　新立　啓介

津奈木校区婦人会

会長　斉藤　道子
副会長　西川　京子
顧問　千々岩順子
会計　塩山　順子
生協　松田ハツエ
生協　石田ミサ子
書記　石田ミサ子

赤崎校区婦人会

会長　森山サツキ
副会長　篠原　尚子
会計　藤原　秀代

平国校区婦人会

会長　上村サミ子
副会長　村上　国子
会計　野崎　久子
書記　伊藤　信子

津奈木町PTA連絡協議会

会長　福田　三継
副会長　上村　幸一
副会長　石田ミサ子
副会長　松永　栄子
会計　松田　芳子
監査　諫山　茂

平国小学校PTA

会長　福田　三継
副会長　村上　廣
副会長　山口　昌子
事務局　金子　勲子
監事　鬼塚　賢造
監事　村上　義広
顧問　喜多　幸夫

津奈木町老人クラブ連合会

会長　丸田　繁人
副会長　諫山　保澄
副会長　成田チエ子
副会長　平野　シエ
事務局長　久村　諭
監事　坂口　義男
監事　伊藤　秀志
顧問　福島　円太

津奈木中学校PTA

監査　佐藤　俊昌
監査　吉野　芳子
書記・会計　野崎　憲章

津奈木中学校PTA

会長　上村　正雄
副会長　富山　正志
副会長　平野　喜久
副会長　石田ミサ子
副会長　元村　久美
会計　荒川美津子
書記　塩山　順子
顧問　金森　滿
顧問　本山　嵩
監事　濱田眞千夫
監事　佐々木満雄

津奈木小学校PTA

会長　佐藤　俊昌
副会長　野崎　憲章
副会長　大川喜美子
会計　竹永　正
書記　大園　晴代
書記　村本　健二
参与　元山　正昭
参与　富安　周男
監事　鶴野　一洋
監事　北岡あつむ

赤崎小学校PTA

会長　上村　幸一
副会長　篠原　重富
副会長　吉野　芳子

花を町いっぱいに広げよう

町民の皆さん、私達が育てた「ポーチェラカとデゴニア」の花を町いっぱいに広げて下さい。

津奈木小学校の子供たち

町民体育祭　ソフトミニバレー）大会

今年度スポーツ行事のトップをきって、町民体育祭男子ソフト・女子ミニバレーボール大会が、五月十七日(日)全地区が参加して開催された。

竹中地区の福永直美選手が力強い選手宣誓を行い、午前九時より競技が開始された。

今回は、男子ソフトボールが従来は三十五才以上の方が対象であったが、三十五才以上が常時五名以上で、他はフリーとなったことで若者の姿が目立った。女子ミニバレーも、バレーからミニバレーに変更して三回目と言うことでミニバレーボールにも慣れて、各試合とも好プレーの連続で選手のレベルアップを感じた。

結果は、ソフトボールが若さとパワーの小津奈木チームが、ミニバレーは、粘りとチームワークで勝ち進んだ竹中チームが初優勝した。

打ってやるぞ!!

チームワークで頑張ろう

熊本少年少女合唱団よりお便り

「この度は、私ども熊本少年少女合唱団を、お招き頂きまして誠にありがとうございました。

すてきな会場で、しかも文化センターは満員、聴き方最高の場で演奏できましたこと、この上もない喜びでございました。

合唱団の子どもたちも、自分たちの定期演奏会以上に緊張感を持ったようですが、演奏会を無事終えることができまして、実に晴ればれとした表情でした。

すばらしい演奏会を与えて下さいましたことに対しまして、心から厚く御礼を申しあげます。

熱唱する合唱団

津奈木町の益々のご発展をお祈り申し上げまして、御礼のことばと致します。

熊本少年少女合唱団
団長　荒川　弘

「水泳教室生」の募集

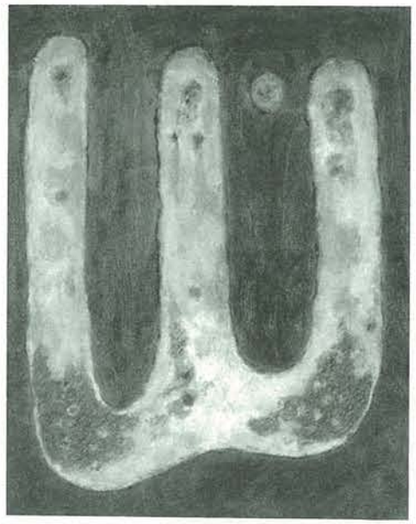
小学校三年生以上で健康な人を対象に左記により、水泳教室を開きますので、教育委員会備え付けの申込書に記入の上、七月二十日まで申込んで下さい。（三十名になり次第、締切ります。）

記

一、期日　七月22・23・24・28・29・30・31（七日間）
午後七時～八時三十分

二、場所　B&G海洋センタープール

庁舎美術館（42）



水彩「湿源」1980　境野一之 作
No.54

遠き天空から見下ろせば、風もなく穏やかな日……
ゆっくりと流れる雲たち、白鷺の集う木立ちを映す鏡となる……荒々しく風が吹き、雨の降る日……
水は鈍色に澱み、うねり、何者をも寄せ付けず、映すことさえ拒否する。
人の心の移ろいにも似て……

曽祖父からのメッセージ

津奈木中学校元村さん　善行で表彰される

元村 梨沙さん

五月五日、徳島市にある啐啄育正会から、津奈木中学校三年生の元村梨沙さんが表彰されました。孝女千代のお国柄、その善行を、本人の感想を通してご紹介します。

私は家族として、曽祖父（ひいおじいちゃん）の世話をすることはあたり前のことだと思っていたのに、そのことで表彰してもらえることを知って、今は亡き曽祖父のことを思い出しました。私は病気で寝たきりの曽祖父の世話を続けながら、「相手の立場になって」ということを学んだような気がします。会場に着くと全国から受賞者が集まっていました。とても緊張しましたが、この賞は曽祖父からのプレゼントであり、メッセージだなあと思いました。

「梨沙、ありがとうとともに他の人のために、弱い人のために思いやりの心を育ててほしい、伝えてほしい……。」やはり、曽祖父の世話をするのがきつい時もありました。でも寝たきりの曽祖父はもっときついんだから、できるだけのことはしてあげないとと思って、やってきたかいがあったと思います。これからは、この賞を頂いたことを、結果でなくスタートとしていきたいと思います。

あと残された中学生活、地域での生活の中で、思いやり、やさしさという今忘れ去られようとしている大切なことを伝えていきたいと思います。

「あけぼの学習会」から

先般、高齢者を対象に「あけぼの学習会」が行われ、鹿児島県出水市の木戸隆先生の「望ましい高齢者の姿」と題する講話がありました。講話の要旨は次の通り。

㈠百動（百才まで身体を動かそう）百働としたいが百動としておく。日本は世界一の長寿国である。気力、体力が長寿につながる。常に、感謝の気持をもって暮していくことが大切である。

㈡百学（百才まで勉強しよう）教養があることは、長寿につながる。「ユーモアと頓智」で暮せば、もめごとはない。趣味として、スポーツ一つ、文化一つをやるようにしよう。

㈢百愛（百才まで愛しよう）いつまでも愛を忘れずに、心の豊かさで暮らそう。

熱心に聞き入る受講生の皆さん

読書感想文

「すばらしい人生」

津奈木中 1年　西平 益絵

私は、「キュリー夫人」という本が大好きです。この本は、六年生の半ばに読みました。この本には、キュリー夫人の一生を、わかりやすく書いてありました。

キュリーは、夫ピエールと結婚し、二人でラジウムを発見、一九〇三年に、ノーベル物理学賞を受賞しました。

このようにすばらしいことがありましたが、そう長くは続きませんでした。

一九〇六年四月十九日、雨の日でした。ピエールは、馬車にはねられ、この世を去りました。四十六歳でした。

けれど、キュリーは立ち上がり、最後までやり通そうと、研究を続けました。

私は、このように悲しみがおおいかぶさっても立ち上がる彼女をすごいと思いました。

やがて、まじり物のないラジウムを取り出し、一九一一年、二度目のノーベル賞（化学賞）を受賞したのです。

けれど、キュリーは、長年に渡って放射能を浴びていたので、とうとう白血病になってしまいました。

それからずっと、寝込むことになったのです。

一九三四年七月四日、キュリー夫人は、

「そ、それは、ラジウムなの？それとも……。」

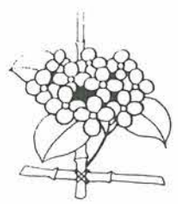
と一言、息を引き取る直前に言いました。こうして、六十四年の人生を終えたのでした。

私も、このキュリー夫人のように、努力してすばらしい人生を送りたいと思います。そのためには、もっと自分にきびしくできなければならないと思います。

苦しかったり、つらかったりしても、すぐにあきらめるようなことがないようにしなければなりません。

そのためには、もっといろいろなことに挑戦し、自分をみがいていこうと思っています。

キュリー夫人は、悔いのない一生であったのではないでしょうか。



郷土の植物 (4)

椎葉 昭二

海岸の環境には特異性がある。その特異条件を挙げると、乾燥する、風が強い、光特に紫外線が強いということであろうか。

植物にとっては好ましい条件ではないが、進化の過程で海岸の環境に適応出来るようになったこれらを、海岸植物という。津奈木海岸には種類が多く、以下、植物名は津奈木産の物を挙げる。

ツルナ、ハマウド、ハマボッス等は葉が厚く、そこに水を蓄え乾燥状態にも耐えることができる。タマシダの根に水を蓄える球状組織があるのも同じ適応の姿である。

ハママンネングサ（ベンケイソウ科）

ハマヒルガオ、ハマボウ、ツルナは地面を這い、海岸斜面に生える植物群生の断面がくさび形になるのは強い風の抵抗を少なくするだけでなく、乾燥の危険から、集団や個体を守る適応でもあろう。

海岸植物の葉がてかてか光っている物や、毛で覆われているものが多いのは強い光、特に紫外線を反射したり和らげたりするのに効果がある。ハマボッス、ハマナタマメ、ハマナデシコ、ハマヒルガオ、ハマウド、イワタイゲキ、ボタンボウフウ、テリハノイバラ、ハマヒサカキ、マサキ、シャリンバイ等は葉の表面に光沢があり、マルバグミ、ホウロクイチゴ、ハマボウ等は葉に毛がある。

福浦のハマナツメ・大泊のハマウツボ、今では見られないが、貴重な物であっただけに残念である。

コクテンギ、ハマユウ、アコウ等のような亜熱帯系の植物も見られる。平国から福浦にかけての岩場にハママンネングサを見られるが、これは芦北海岸の特産で、県下では珍しい。

小津奈木川の川口にはシオクグのような海水を含む土地にも生える植物が見られる。

随筆

「ゆとり」に「ゆたかさ」を

塚本 禎子

私は、父の勤めの都合で高校生の頃は、長崎県の諫早市にいました。その頃の私は、大変おとなしかったようです。「あらっ」と思われる方も多いと思いますが、将来の希望として図書館の司書と自分で決めていたことと、思いあわせますと、そんな年頃もあったことは事実のようです。

本当に自分は、人嫌いだから、人にものを言わなくてもよい「本」相手の図書館司書になりたいと父たちにも希望を申していました。

高校卒業の間際になって、司書コースのある学校を探した結果、当時佐賀市にあった短大に入学しました。のんびりした二年間の学園生活でしたが、卒業時には、念願の司書の資格をいただきました。しかし、目的だった熊本の県立図書館の就職は叶えられませんでした。

それでも、もうひとついただいていた教育の免許のおかげで天草郡内の小学校にお世話していただきました。

人の運命というものは不思議なものですね。あんなに人前で話すのが苦手だった私が、それ以来、おしゃべり嫌いの筈が、結構、子供たちの相手のおしゃべり生活を今日まで続けております。

本の相手ではなく、人を相手にした毎日の生き方の幸せもそれなりに納得できる歳月を過ごして参りました。

それにしてもこの頃は、学校の週休二日制も試行に入り、子供たちの「ゆとり」について考えさせられます。

土、日曜と遊び呆ける子供たちのゆとりの中に育てるものがありはしないか。それを「ゆたかさ」と仮に申しましょうか。

そのためには、やはり子供たちの遊びの中心になる児童館のような公的な施設があってよいのではないでしょうか。その児童館には私の大好きな図書室を設けてもらいましょう。子供たちは、図書室で、本を読むことも、本を眺めることも、たとえ、幼児が本をおもちゃに遊んでも大目に見ます。

のびのびと育つ「ゆとり」の中で子供たちの「ゆたかさ」が培えたら週休二日制は素晴しい子供たちへの贈り物になるでしょう。

児童館の図書室の片隅で、そんな幸せそうな子供たちの遊びぶりを静かに眺めている私がいる。

図書館好きだった私には、想像しただけでも、楽しくなりますから図書館に憑かれたと言うのでしょう。

短歌

宮崎 優 選

お立岬に立ちい見さくる海あをく
今日天草のま近くに在り
阿蘇原の野焼きの匂い残りいて春
なお遠く牛も見えざり
寺本つるを

梅の花つながり乍ら褪せゆけり人
生の波ひとり生きゆく
カーテンを少し開ければ暁の冷気
にふれり一人居の部屋
白浜美和子

闇に浮かぶ瀬戸大橋を今くぐるフ
エリーの窓に目を凝らしつつ
しぐれの雲の遺歌集いつきに読み
終えて作者を偲びひと夜眠れず
野田浦子

赤あかと目ざむる如し芝桜鮮かに
咲く五月の空に
甘夏の下草取ればほんのりと香り
たちくる花びらのちる
福田八重子

磯庭園まわりて偲ぶいにしえの人
のたつきに思いははせる
季節の花好みの品を奥城に母を偲
びて二十五年忌
柳迫いづも

夢にだに思い居ざりき若き折り病
弱の吾が八十九むかゆ
古文の中に見いでし遠き祖の自詠
自筆の短歌のなつかし
鳥井保

深紅と淡きピンクの並び咲く重た
き程のボタンに露おく
朝毎に髭そる習い遠のきぬ職退き
てより野人のごとし
宮崎優

「短歌一口メモ」単純化と修飾、歌の単純化とよく云われますが、一首のうちに単純に一つの物事を集約する。歌を必要以上に飾ると本当に感動が遠ざかってしまう。歌は最小限の修飾にとどめることが大切である。修飾語は非修飾語の近くに置く、形容詞は飾りの多いものよりナマな方がよい。歌は簡潔を尊ぶ。

肥後狂句

編集部整理

こらしもた、余計なこつばけ喋（ち）ってこらしもた、発車時間にゃ間に合わん
腹いっぱい、ご馳走もそうは食べられん
腹いっぱい、食べらるる世のありがたさ
雲波

こらしもた、あっちの店が安かったこらしもた、まだ独身で思とった
腹いっぱい、苦労ばっかしぬさっとる
腹いっぱい、体重計がこわかねえ
万葉

こらしもた、塩と砂糖と間違えたこらしもた、株は値下りしてしもた
腹いっぱい銭バラ播いて見ろごたる
腹いっぱい、あっという間のチャンコ鍋
七本松

〔次笠〕ひまつぶし、バレたか一笠二句づつ、八月十日まで役場内教育委員会社会教育係へ